



Translation (part)

**Standards for Nutrition Labeling**

Ministry of Health and Welfare Notification No.176 of  
April 24, 2003.

**Article 9**

(1) Any Labeling to the effect that a nutrition component or calories as listed in Column 1 of Attached Table 6 can be taken as stated (except the labeling provided in (1) of the preceding article, to the effect that a nutrition component or calories are not contained, or the labeling provided in (1) of the next article, to the effect that a nutrition component or calories is lowered) shall not be used when the quantity of a subject nutrition component or calories per 100 g of subject food (in the case of soft drinks etc., per 100 ml of subject food) exceeds a value shown in Column 2 of the same table (in the case of soft drinks etc., a value shown in Column 3 of the same table).

**Attached Table 6**

1	2	3
Fat	3 g	1.5 g
Saturated Fatty Acid	1.5 g	0.75 g
Cholesterol	20 mg	10 mg
<u>Saccharides</u>	5 g	<u>2.5 g</u>
Sodium	120 mg	120 mg
Calories	40 kcal	20 kcal

**BEST AVAILABLE COPY**

# ○栄養表示基準

(平成十五年四月二十四日)  
(厚生労働省告示第百七十六号)

改正 平成二十二年三月二十日厚生労働省令第百三十八号  
内 一に毎百二十五日同 第二十六号  
一に毎百二十五日同 第二十六号  
同 一に毎百二十五日同 第二十六号

健康増進法(平成十四年法律第百三十三号)第三十一條第一項の規定に基づき、栄養表示基準を次のように定め、平成十五年五月一日から適用することとしたので、同条第三項の規定に基づき、告示する。  
 一、栄養表示基準(平成八年厚生省告示第百四十六号)は、平成十五年四月三十日限り廃止する。

## 栄養表示基準

(適用の範囲)

第一条 この基準は、販売に供する食品(専ら食品衛生法(昭和十二年法律第百三十三号)第四條第八項に規定する殺菌者が輸入し、又は使用するもの及び生鮮食品(腐敗を除く)を除く。以下単に「販売に供する食品」という。)につき、邦文により栄養表示をしようとする場合及び本邦において販売に供する食品であつて邦文により栄養表示がなされたもの(以下「栄養表示食品」という。)を輸入する場合について適用する。

一 栄養表示 一 告示 栄養表示基準

平成十五年 三月 九日 〇時〇〇分

栄養一五九号

第一に販売する人、一、四、四、四

(表示事項)

第二条 健康増進法(平成十四年法律第百三十三号、以下「法」という。)第三十一條第二項第一号の食品の栄養成分量及び熱量に關し表示すべき事項は、次に掲げる事項とする。

一 当該食品の100g若しくは100ml又は1食分、1包等の量の1単位(以下この条において「食品単位」という。)当たりのたんぱく質、脂質、炭水化物及びナトリウムの量並びに熱量

二 販売に供する食品につき表示しようとする栄養成分(栄養表示食品を輸入する場合に於ては当該栄養表示食品に表された栄養成分)の当該食品単位当たりの量(通常に掲げる事項を除く。次条において「表示栄養成分の量」という。)

三 当該食品単位

四 当該食品単位が1食分である場合に於ては、当該1食分の量

五 食生活において別添第一の第一欄に掲げる栄養成分の摂取を目的として摂取をする者に対し、当該栄養成分を含むものとして栄養の定めるところにより当該栄養成分の摂取の表示をするもの(以下「栄養表示食品」という。)に於ては、栄養表示食品である旨、当該栄養成分の名称及び原産地、一日当たりの摂取目安量、摂取の方法、摂取をする上での注意事項、ベランソの取れた食生活の普及等を図る文言並びに厚生労働大臣の関与の承認を受けたものではない旨のほか、次に掲げる事項を表示するものとする。

三九

- 一 機能に関する表示を行っている栄養成分について国民の健康の維持増進等を図るために性別及び年齢階級別の摂取量の基準が示されている場合にあつては、一日当たりの摂取目安量に含まれる当該栄養成分の、当該基準における摂取量を性別及び年齢階級（六歳以上に限る。）ごとの人口により加重平均した値に対する割合
- 二 調理又は保存の方法に関し特に注意を必要とするものにあつては、当該注意事項
- (五十七歳未満一六・五、一七歳未満三二・〇、一歳未満)
- (表示の方法)
- 第三条 前条に規定する事項は、次の方法により表示しなければならない。
- 一 短文を用いて、当該食品を一括に購入し、又は使用する者が読みやすく、理解しやすいような用語により正確に記述すること。
- 二 容器包装（当該食品が包装されている場合は、当該包装を含む。）の目やすい部分又は当該食品に添付する文書に記載すること。
- 三 容器包装（当該食品が包装されている場合は、当該包装を含む。）に記述する場合にあつては、容器包装（当該食品が包装されている場合は、当該包装）を開かないでも容易に見ることができるよう記載すること。
- 四 前条第一項第一号に掲げる事項及び表示栄養成分の量は、当該栄養成分又は熱量である旨の文書を記した一定の値又は下限値及び上限値により、品質、たんぱく質の量、脂質の量、炭水化物の量、ナトリウムの量及び表示栄養成分の量の順に記載すること。
- 五 前号の一定の値又は下限値及び上限値（表示栄養成分の値にあつては、別表第二の第一欄に掲げるものに限る。次号において同じ。）は、同表の第一欄の区分に応じ、同表の第二欄に掲げる単位で記載すること。
- 六 第四号の一定の値又は下限値及び上限値は、当該一定の値にあつては、別表第二の第一欄の区分に応じ、同表の第三欄に掲げる方法によつて得られた値を基準として同表の第四欄に掲げる誤差の許容範囲内にある値、当該下限値及び上限値にあつては、同表の第一欄の区分に応じ、同表の第三欄に掲げる方法によつて得られた値が当該下限値及び上限値の範囲内であること。ただし、当該一定の値のうち前条第一項第一号に掲げる事項並びに飽和脂肪酸、コレステロール及び糖類（単糖類又は二糖類であつて、糖アルコールでないものに限る。以下同じ。）とばらものである場合は、同表の第一欄の区分に応じ、同表の第三欄に掲げる方法によつて得られた当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量又は熱量（産物原料水等その他の一定に使用される原料の水等）（以下「産物原料水等」という。）にあつては、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量又は熱量が同表の第五欄に掲げる値に満たない場合は、〇とするのができる。
- 七 前条第二項の栄養成分の総量の表示は、同表第一の第一欄に掲げる栄養成分を含む食品であつて、当該食品の一日当たりの

栄養一五九号

- 品質目安量に含まれる当該栄養成分の量、それぞれ同表の第三欄に掲げる値以上であるものについて、それぞれ同表の第三欄に掲げる事項を記載して行うこと。
- 八 前条第二項の規定により表示する一日当たりの摂取目安量は、当該摂取目安量に含まれる別表第一の第一欄に掲げる栄養成分の量、それぞれ同表の第四欄に掲げる値を超えるものであつてはならないこと。
- 九 前条第二項の摂取をする上での注意事項の表示は、別表第一の第一欄に掲げる栄養成分の区分に応じ、同表の第五欄に掲げる事項を記載してこれを行わなければならないこと。
- 二 前条第四号の規定にかかわらず、前条第一項第一号に掲げる事項又は表示栄養成分の量であつて当該事項に係る前条第四号の一定の値を〇とするものについては、当該栄養成分又は熱量である旨の文書を記して一括して記載することができる。
- 一 栄養成分の機能の表示をする場合にあつては、次の掲げる表示をしてはならない。
- 一 別表第一の第一欄に掲げる栄養成分以外の成分の機能の表示
- 二 特定の保健の目的が期待できる旨の表示
- (五十七歳未満一六・五、一七歳未満三二・〇、一歳未満)
- (炭水化物の量の表示に関する特例)
- 第四条 第二條第一項第一号の規定にかかわらず、同条に規定する炭水化物の量の表示については、脂質及び食物繊維の量の表示をもつて代えることができる。この場合における前条の適用については、同表第一項第四号中「炭水化物」とあるのは、「脂質及び食物繊維」とする。

- 栄養一五九号
- 品質」とする。
- (含み目の表示について表示すべき事項)
- 第五条 別表第三の第一欄に掲げる栄養成分の補填ができる旨の表示（次条第一項に規定する含み目の表示及び第七条第一項に規定する強化された旨の表示を除く。第三項において「含み目の表示」という。）は、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量（産物原料水等）にあつては、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量（産物原料水等）が同表の第二欄に掲げる量（産物原料水等）であつては、同表の第三欄に掲げる量）に満たす、かつ、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量が同表の第四欄に掲げる量に満たない場合はしてはならない。
- 二 前項の栄養成分の量は、別表第二の第一欄の区分に応じ、同表の第三欄に掲げる方法によつて得るものとする。
- 三 含み目の表示がなされた購入に係る栄養表示食品を調製するに際しては、第一項に規定する場合は、当該含み目の表示がなされたければならない。
- (含み目の表示について表示すべき事項)
- 第六条 別表第四の第一欄に掲げる栄養成分の補填ができる旨の表示のうち当該栄養成分を含む旨のもの（第三項において「含み目の表示」という。）は、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量（産物原料水等）にあつては、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量（産物原料水等）が同表の第二欄に掲げる量（産物原料水等）であつては、同表の第三欄に掲げる量）に満たす、かつ、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量が同表の第四欄に掲げる量に満たない場合はしてはならない。

- い場合はしてはならない。
- 2 前条第二項の規定は、前項の栄養成分の量について準用する。
- 3 含有量の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第一項に規定する場合、当該含有量の表示を消さなければならぬ。
- (低化された旨の表示について遵守すべき事項)
- 第十条 別表第四の第一欄に掲げる栄養成分の補綴がでる旨の表示のうち他の食品に比べて当該栄養成分の量が低化された旨のもの（以下この条において「低化された旨の表示」という。）は、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの当該栄養成分の量）が当該他の食品に比べて低化された量が同表の第二欄に掲げる量（清涼飲料水等にあつては、同表の第三欄に掲げる量）に満たず、かつ、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量が当該他の食品に比べて低化された量が同表の第四欄に掲げる量に満たない場合はしてはならない。
- 2 第五条第二項の規定は、前項の栄養成分の量について準用する。
- 3 低化された旨の表示をするに際しては、次の事項を表示しなければならない。
- 一 当該他の食品を特定するために必要な事項
- 二 当該栄養成分の量が当該他の食品に比べて低化された量又は割合
- 4 前項に規定する事項は、第三条第一項第一号から第三号までに規定する方法のほか、次の方法により表示しなければならない。

- 一 前項第三号の栄養成分の量は、同表第二の第二欄の区分に応じ、同表の第二欄に掲げる単位で記載すること。
- 二 前項第三号の栄養成分の量又は割合は、同表第二の第二欄の区分に応じ、同表の第三欄に掲げる方法によって得られた値に四捨五入して得られた値又は割合以下であること。
- 5 低化された旨の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第一項に規定する場合、当該低化された旨の表示を消さなければならない。
- 6 低化された旨の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第三項に規定する事項を第四項に規定する方法により表示しなければならない。ただし、当該低化された旨の表示を消した場合は、この限りでない。
- (含まない旨の表示について遵守すべき事項)
- 第八条 別表第五の第一欄に掲げる栄養成分又は脂質の適切な表示ができる旨の表示のうち当該栄養成分又は脂質を含まない旨のもの（以下この条において「含まない旨の表示」という。）は、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量又は脂質（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの当該栄養成分の量又は脂質量）が同表の第二欄に掲げる量以上である場合はしてはならない。
- 2 前項に定めるもののほか、コレステロールに係る含まない旨の表示は、当該食品一〇〇g当たりの飽和脂肪酸の量が一・五g（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの飽和脂肪酸の量が〇・七五g）以上であり、かつ、当該食品の総量のうち飽和脂肪酸に由来するものが当該食品の総量の一〇%以上である場合に

経過一五九号

- はしてはならない。ただし、当該食品一食分の量を一五g以下である旨を表示し、かつ、当該食品中の飽和脂肪酸の量のうち飽和脂肪酸の量のうちある割合が一五%以下である場合は、この限りでない。
- 3 第五条第二項の規定は、前二項の栄養成分の量及び割合について準用する。
- 4 含まない旨の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第一項及び第二項に規定する場合、当該含まない旨の表示を消さなければならない。
- (低減された旨の表示について遵守すべき事項)
- 第九条 別表第六の第一欄に掲げる栄養成分又は脂質の適切な表示ができる旨の表示（前条第一項に規定する含まない旨の表示及び次条第一項に規定する低減された旨の表示を除く。以下この条において「低減された旨の表示」という。）は、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量又は脂質（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの当該栄養成分の量又は脂質量）が当該他の食品に比べて低減された量が同表の第二欄に掲げる量（清涼飲料水等にあつては、同表の第三欄に掲げる量）に満たない場合はしてはならない。
- 2 前項に定めるもののほか、飽和脂肪酸に係る低減した旨の表示は、当該食品の総量のうち飽和脂肪酸に由来するものが当該食品の総量の一〇%を超える場合はしてはならない。
- 3 第二項に定めるもののほか、コレステロールに係る低減した旨の表示は、当該食品一〇〇g当たりの飽和脂肪酸の量が一・五g（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの飽和脂肪酸の量が〇・七五g）を超え、かつ、当該食品の総量のうち飽和脂肪酸に由来するものが当該食品の総量の一〇%を超える場合はしてはならない。

経過一五九号

- に由来するものが当該食品の総量の一〇%を超える場合はしてはならない。ただし、当該食品一食分の量を一五g以上である旨を表示し、かつ、当該食品中の飽和脂肪酸の量のうち飽和脂肪酸の量のうちある割合が一五%以下である場合は、この限りでない。
- 4 第五条第二項の規定は、前二項の栄養成分の量及び割合について準用する。
- 5 低減した旨の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第一項から第三項までに規定する場合、当該低減した旨の表示を消さなければならない。
- (低減された旨の表示について遵守すべき事項)
- 第十条 別表第六の第一欄に掲げる栄養成分又は脂質の適切な表示ができる旨の表示のうち他の食品に比べて当該栄養成分の量又は脂質が低減された旨のもの（以下この条及び次条において「低減された旨の表示」という。）は、当該食品一〇〇g当たりの当該栄養成分の量又は脂質（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの当該栄養成分の量又は脂質量）が当該他の食品に比べて低減された量が同表の第二欄に掲げる量（清涼飲料水等にあつては、同表の第三欄に掲げる量）に満たない場合はしてはならない。
- 2 前項に定めるもののほか、コレステロールに係る低減された旨の表示は、当該食品一〇〇g当たりの飽和脂肪酸の量が当該他の食品に比べて低減された量が一・五g（清涼飲料水等にあつては、当該食品一〇〇ml当たりの飽和脂肪酸の量が〇・七五g）に満たない場合はしてはならない。
- 3 第五条第二項の規定は、前二項の栄養成分の量及び割合について

て使用する。

「低減された旨の表示をするに際しては、次の事項を表示しなければならない。

一 当該他の食品を特定するために必要な事項

二 当該栄養成分の量又は割合が当該他の食品に比べて低減された旨又は割合

5 第七条第四項の規定は、前項に規定する事項の表示の方法について準用する。

6 低減された旨の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第一項及び第二項に規定する場合に、当該低減された旨の表示を消さなければならない。

7 低減された旨の表示がなされた輸入に係る栄養表示食品を販売するに際しては、第四項に規定する事項を第五項に規定する方法により表示しなければならない。ただし、当該低減された旨の表示を消した場合は、この限りでない。

(しゅうゆに係る特別)

第十一條 しゅうゆのナトリウムに係る低減された旨の表示についての前条の規定の適用については、同条第一項中「他の食品」とあるのは「同様の種類のしゅうゆ」と、「減たない場合」とあるのは「減らず、又は当該しゅうゆのナトリウムの含有量が同様の種類のしゅうゆに比べて低減された割合が二割に満たない場合」と、同条第四項中「他の食品」とあるのは「同様の種類のしゅうゆ」とする。

(平成十七年度第三〇・二第改正)

改正前文(平成一六年厚生労働省告示第三八号)

〔前項〕平成十六年二月二十七日から適用する。

改正前文(平成一六年厚生労働省告示第一二六号)

〔前項〕平成十六年四月一日から適用する。

改正前文(平成一七年厚生労働省告示第一六号)

〔前項〕平成十七年二月一日から適用する。ただし、第三項と一

項を同じくする改正規定は、平成十七年五月一日から適用し、この告示による改正前の栄養表示基準の定めるところにより栄養成分の表示の表示をする食品で、平成十八年三月三十一日までで製造され、加工され、又は輸入されるものの表示については、この告示による改正後の栄養表示基準第二條の規定にかかわらず、なお従前の例によることができる。

改正前文(平成一七年厚生労働省告示第三一〇号)

〔前項〕公布の日から適用する。ただし、この告示による改正前の栄養表示基準の定めるところにより栄養表示をする食品で、平成十八年十二月三十一日までで製造され、加工され、又は輸入されるものの表示については、この告示による改正後の栄養表示基準の規定にかかわらず、なお従前の例によることとができる。

栄養一五九号

別添第一(第二條、第三條関係)(平成一七年第三〇・二第改正)

第一欄	第二欄	第三欄	第四欄	第五欄
商品名	二・一 〇四	亜鉛は、健康を正 常に保つのに必要な 栄養素です。 亜鉛は、皮膚を枯 燥の健康維持を助け る栄養素です。 亜鉛は、たんぱく 質、脂質の代謝に関 与して、健康の維持 に役立つ栄養素で す。	一五四	本品は、多量摂取 により医師が治療し たり、より健康が増 進するものではありません。 亜鉛の過剰な摂取は、銅の吸収を 阻害するおそれあり ますので、過剰摂取 にならないよう注 意してください。乳幼 児・小児は本品の取 り過ぎを避けてくださ い。
カルシ	二二〇	カルシウムは、骨を 強くする	六〇〇	本品は、多量摂取

「栄養成分」並びに「栄養表示基準」

第百三十三号 昭和二十九年

栄養一五九号

第一欄	第二欄	第三欄	第四欄	第五欄
鉄	二・二 五四	鉄は、赤血球を作 るのに必要な栄養素 です。	一〇四	本品は、多量摂取 により医師が治療し たり、より健康が増 進するものではありません。 一日の摂取 目安量を守ってくだ さい。
銅	〇・一 八四	銅は、赤血球の形 成を助ける栄養素で す。 銅は、多くの体内 酵素の正常な働きと 骨の形成を助ける栄 養素です。	六四	本品は、多量摂取 により医師が治療し たり、より健康が増 進するものではありません。 一日の摂取 目安量を守ってくだ さい。乳幼児・小児 は本品の摂取を避け てください。

四四一

アスコ リン酸	七五 mg	アスコリン酸は、骨や歯の形成に必要な栄養素です。アスコリン酸は、多くの体内酵素の正常な働きとエネルギー生産を助けるとともに、血行循環を正常に保つのに必要な栄養素です。	三〇〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。乳幼児、小児は本品の摂取を避けてください。
ナイア シン	三・三 mg	ナイアシンは、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	六〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。
ベント テン酸	一・六 mg	ベントテン酸は、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	三〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。

ビオチ ン	一四 mg	ビオチンは、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	五〇〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。
ビタミ ン A	一三・五 mg	ビタミンAは、夜間の視力の維持を助ける栄養素です。ビタミンAは、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	六〇〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。 妊婦三か月以内又は妊娠を希望する女性は避妊しなくてはなりません。

栄養一五九号

栄養一五九号

ビタミ ン B <sub>1</sub>	〇・三 mg	ビタミンB <sub>1</sub> は、炭水化物からのエネルギー生産と皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	二五 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。
ビタミ ン B <sub>2</sub>	〇・三 mg	ビタミンB <sub>2</sub> は、皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	二 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。
ビタミ ン B <sub>6</sub>	〇・三 mg	ビタミンB <sub>6</sub> は、たんぱく質からのエネルギー生産と皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。	一〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。

ビタミ ン B <sub>12</sub>	〇・六 mg	ビタミンB <sub>12</sub> は、赤血球の形成を助ける栄養素です。	六〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。
ビタミ ン C	二四 mg	ビタミンCは、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。	一〇〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。
ビタミ ン D	一・五 mg	ビタミンDは、腸管でのカルシウムの吸収を促進し、骨の形成を助ける栄養素です。	五・〇 mg	本品は、多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。

ビタミンE	二・四	本品は、多量摂取により医師が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一日の摂取目安量を守ってください。	二五〇
鉄	六〇	本品は、多量摂取により医師が治癒したり、より健康が増進するものではありません。一月の摂取目安量を守ってください。	二〇〇

別表第二（第三項、第五項、第七項、第九項、第十項関係）（第一の表第三十三（一）参照）

第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
たんぱく質	〇	窒素定価法	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%
脂質	〇	エーテル抽出法、クロロホルム・イタール抽出法、抽出法、ゲルペル法、脂肪酸法又はレリセファント	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%
飽和脂肪	〇	ガスクロマトグラフ法	アラス・アイ ナス二〇%	〇・一%
コレステロール	〇	ガスクロマトグラフ法	アラス・アイ ナス二〇%	五%
灰分	〇	当該食品の重量から、たんぱく質、脂質、灰分及	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%

栄養一五九号

たんぱく質	〇	当該食品の重量から、たんぱく質、脂質、食物繊維、水分の量を算出して算出すること。この場合において、たんぱく質及び脂質の量にあっては、第一項の区分に応じ、第三項に掲げる方法により測定し、灰分及び水分の量にあっては、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に掲げる方法により測定すること。	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%
脂質	〇	一 灰分 酢酸アセトン抽出法又は脂肪酸抽出法 二 水分 カール・フィッシャー法、乾燥剤法、减压加温乾燥法、减压加温乾燥法又はアラス・アイ法	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%

栄養一四九号

たんぱく質	〇	当該食品の重量から、たんぱく質、脂質、食物繊維、水分の量を算出して算出すること。この場合において、たんぱく質及び脂質の量にあっては、第一項の区分に応じ、第三項に掲げる方法により測定し、灰分及び水分の量にあっては、灰分及び水分の量の第三項の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に掲げる方法により測定すること。	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%
脂質	〇	ガスクロマトグラフ法又は高速液体クロマトグラフ法	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%
飽和脂肪	〇	ガスクロマトグラフ法	アラス・アイ ナス二〇%	〇・一%
コレステロール	〇	ガスクロマトグラフ法	アラス・アイ ナス二〇%	五%
灰分	〇	当該食品の重量から、たんぱく質、脂質、灰分及	アラス・アイ ナス二〇%	〇・五%

項目	単位	検査項目	法名	検査表示基準
ナトリウム	mg(1000以上)	原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	五 mg
銅	mg	原子吸光度法、ヤレート抽出—原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	原子吸光度法、ヤレート抽出—原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	二〇 mg
鉄	mg	オルトフェナントロリン比色法、原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	オルトフェナントロリン比色法、原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	二〇 mg
カルシウム	mg	過マンガン酸カリウム容量法、原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	過マンガン酸カリウム容量法、原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	二〇 mg

項目	単位	検査項目	法名	検査表示基準
ビタミン	mg	吸光度法又は高速液体	吸光度法又は高速液体	五 mg
ニコチン	mg	吸光度法	吸光度法	二〇 mg
バントニン酸	mg	吸光度法	吸光度法	二〇 mg
ナイアシン	mg	高速液体クロマトグラフ法又はナイアシン定置用誘導結合法	高速液体クロマトグラフ法又はナイアシン定置用誘導結合法	二〇 mg
アグニシウム	mg	原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	原子吸光度法又は誘導結合プラズマ発光分析法	二〇 mg

第149号

項目	単位	検査項目	法名	検査表示基準
ビタミンC	mg	二・四・二・ニトロフェニルピラジニン法、イントフェノールピラジニン法、高速液体クロマトグラフ	二・四・二・ニトロフェニルピラジニン法、イントフェノールピラジニン法、高速液体クロマトグラフ	五 mg
ビタミンB <sub>12</sub>	mg	微生物定置法	微生物定置法	二〇 mg
ビタミンB <sub>6</sub>	mg	微生物定置法	微生物定置法	二〇 mg
ビタミンB <sub>1</sub>	mg	高速液体クロマトグラフ法又はハミフラビン法	高速液体クロマトグラフ法又はハミフラビン法	二〇 mg
ビタミンB <sub>2</sub>	mg	高速液体クロマトグラフ法又はクオタローム法	高速液体クロマトグラフ法又はクオタローム法	二〇 mg
ビタミンA	mg	クロマトグラフ法	クロマトグラフ法	二〇 mg

第149号

項目	単位	検査項目	法名	検査表示基準
熱量	kcal	修正アトウォーター法	修正アトウォーター法	五 kcal
脂肪	mg	微生物定置法	微生物定置法	二〇 mg
ビタミンE	mg	高速液体クロマトグラフ法	高速液体クロマトグラフ法	二〇 mg
ビタミンD	mg	高速液体クロマトグラフ法	高速液体クロマトグラフ法	二〇 mg



第一欄	第二欄	第三欄	第四欄
たんぱく質	一五g	七・五g	七・五g
食物繊維	六g	三g	三g
亜鉛	二・一〇mg	一・〇五mg	〇・七〇mg
カルシウム	二二〇mg	一〇五mg	七〇mg
鉄	二・二五mg	一・一三mg	〇・七五mg
銅	〇・一八mg	〇・〇九mg	〇・〇六mg
アタキウム	七五mg	三八mg	二五mg
ナイアシン	三・三mg	一・七mg	一・一mg
ペントテン酸	一・六五mg	〇・八三mg	〇・五五mg
ビオチン	一四mg	六・八mg	四・五mg

ビタミンA	一三五μg	六八μg	四五μg
ビタミンB <sub>1</sub>	〇・三〇mg	〇・一五mg	〇・一〇mg
ビタミンB <sub>2</sub>	〇・三三mg	〇・一七mg	〇・一一mg
ビタミンB <sub>6</sub>	〇・三〇mg	〇・一五mg	〇・一〇mg
ビタミンB <sub>12</sub>	〇・六〇μg	〇・三〇μg	〇・二〇μg
ビタミンC	二四mg	一二mg	八mg
ビタミンD	一・五〇μg	〇・七五μg	〇・五〇μg
ビタミンE	二・四mg	一・二mg	〇・八mg
葉酸	六〇μg	三〇μg	二〇μg

検査一五九号

第一欄	第二欄	第三欄	第四欄
たんぱく質	七・五g	三・八g	三・八g
食物繊維	三g	一・五g	一・五g
亜鉛	一・〇五mg	〇・五三mg	〇・三五mg
カルシウム	一〇五mg	五三mg	三五mg
鉄	一・一三mg	〇・五六mg	〇・三八mg
銅	〇・〇九mg	〇・〇五mg	〇・〇三mg
アタキウム	三八mg	一九mg	一三mg
ナイアシン	一・七mg	〇・八mg	〇・六mg
ペントテン酸	〇・八三mg	〇・四一mg	〇・二八mg
ビオチン	六・八mg	三・四mg	二・三mg

検査一五九号

ビタミンA	六八μg	三四μg	二三μg
ビタミンB <sub>1</sub>	〇・一五mg	〇・〇八mg	〇・〇五mg
ビタミンB <sub>2</sub>	〇・一七mg	〇・〇八mg	〇・〇六mg
ビタミンB <sub>6</sub>	〇・一五mg	〇・〇八mg	〇・〇五mg
ビタミンB <sub>12</sub>	〇・三〇μg	〇・一五μg	〇・一〇μg
ビタミンC	一二mg	六mg	四mg
ビタミンD	〇・七五μg	〇・三八μg	〇・二五μg
ビタミンE	一・二mg	〇・六mg	〇・四mg
葉酸	三〇μg	一五μg	一〇μg

第 一 項	第 二 項
脂質	0.5g
飽和脂肪酸	0.1g
コレステロール	5mg
塩類	0.5g
ナトリウム	5mg
熱量	5 kcal

備考

トレンクタイプ調味料(食前又はかきつ類の果汁に食塩、塩類、増粘剤、香料等を加えて調製したものであって、主としてサラダ料理等に使用する半固形状又は液状の調味料(食塩等を原材料として使用していないものをいう。)をいう。)については、脂質の項中「0.5g」とあるのは、「3g」とする。

第 一 項	第 二 項	第 三 項
脂質	3g	1.5g
飽和脂肪酸	1.5g	0.75g
コレステロール	20mg	10mg
塩類	5g	2.5g
ナトリウム	220mg	110mg
熱量	40 kcal	20 kcal

表四、四九号

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**